

総合人間学部・人間・環境学研究科

I	研究の水準	研究 10-2
II	質の向上度	研究 10-4

I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における発表論文数は平均340.3件、著書数は平均103.0件、招待講演数は平均176.8件となっている。また、学会等の受賞数は平均8.8件となっている。
- 第2期中期目標期間における科学研究費助成事業の採択状況は、平均68.0件（約2億300万円）となっている。また、受託研究及び共同研究の受入状況は、合わせて平均15.3件（約1億100万円）となっている。
- 第2期中期目標期間に、国際シンポジウム、総合博物館展示企画、京都市・長浜市等の交流協定に基づくワークショップ等を計37件実施している。

以上の状況等及び総合人間学部・人間・環境学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目 II 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 学術面では、特に教育学、機能物性化学、無機材料物性において卓越した研究成果がある。また、第2期中期目標期間における学会賞、学術賞等の受賞数は平均8.8件となっている。
- 卓越した研究業績として、教育学の「日本における「良妻賢母」思想の成立と時代的変遷に関する研究」、機能物性化学の「純有機液晶材料の磁性に関する研究」、無機材料物性の「セラミックスの光学特性に関する研究」がある。教育学の「日本における「良妻賢母」思想の成立と時代的変遷に関する研究」は、第二次世界大戦以前の日本女子教育の理念として考えられていた「良妻賢母」思想が、女性の望ましい資質や役割に関する普遍的・近代的な思想であることを示したことにより、the 2013 Choice Outstanding Academic Title Awardを受賞している。

- 社会、経済、文化面では、特に生物多様性・分類、精神神経科学において特徴的な研究成果がある。
- 特徴的な研究業績として、生物多様性・分類の「DNA 情報の解析に関する研究」、精神神経科学の「発達障害者の特性評価スケールの研究」がある。

以上の状況等及び総合人間学部・人間・環境学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、総合人間学部・人間・環境学研究科の専任教員数は 117 名、提出された研究業績数は 26 件となっている。

学術面では、提出された研究業績 22 件（延べ 44 件）について判定した結果、「SS」は 2 割、「S」は 4 割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績 5 件（延べ 10 件）について判定した結果、「SS」は 1 割、「S」は 4 割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1 件の研究業績に対して 2 名の評価者が判定した結果の件数の総和）

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第2期中期目標期間における発表論文数は平均 340.3 件、著書数は平均 103.0 件、招待講演数は平均 176.8 件となっている。招待講演数は 137 件から 200 件の間を推移している。
- 第2期中期目標期間に、国際シンポジウム、総合博物館展示企画、京都市・長浜市等の交流協定に基づくワークショップ等を合計 37 件実施している。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第2期中期目標期間における学会賞、学術賞等の受賞数は平均 8.8 件となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。